



都市創造マインド

亜細亜大学都市創造学部 学部長

松岡 拓公雄

2016年4月、亜細亜学園創立75周年に大きな役割を背負って、都市創造学部は開設された。この一歩は極めて大きいことをここに記しておきたい。社会学を基盤にした都市生活を幸せなものにするというスローガンを抱えた「都市創造」の教育と研究の出番がやってきたのである。

社会学者の加藤秀俊は、1976年の著書「空間の社会学」で、様々なコンテンツで相互依存している都市をすでに社会学の視点から描いており、高度成長時代後、人よりも技術が先行して行く傾向に警鐘を鳴らしていた。バブル期には設備系や素材系の進化により、一気に建築が巨大化し都市景観は生き物のように変容していく。現在も2020東京オリ&パラリンピックに向け再び、国立競技場や交通網、再開発などの大改造が続き、豊洲市場移転などの問題を抱えている。アジア主要都市も投資対象や権威象徴の高層建築でのメタボリズム（新陳代謝）が主流だ。しかし一方では少子高齢化・地球環境問題・金融危機などを背景として、開発や様々な設計行為、経済活動の前提が問い直される時代になっている。人々は物理的な空間に依存せずとも、仮想空間でもコミュニケーションができる現在、スマートシティ、コンパクトシティの輪郭が見えている。都市はようやくエンジニアリング先行の眼差しから、社会的現実に対しての眼差し、つまり社会学的な生活者の視点から新たな地平を模索しはじめた。ビッグデータ活用、ゲームニクス応用など様々なコンテンツを複合化した切り口で都市そのものや社会は再構築され、それを生業とするデザインマインドを持った人材が求められる時代となる。

その期待される人材を育てるのが、既存の文系学部と連結し起動した「都市創造学部」である。「アジア交流の拠点となる」「学生一人一人と向き合い個性値を伸ばす」「学生を生涯応援する」「社会に貢献する」この大学の新たなビジョンは、それ自体が社会学の視点に立つ都市創造学部の教育と研究の目標そのものである。同時に都市創造学部研究所を立ち上げ、研究を深めることと、実践的方法を常に模索することを両立させ、我々自身の教育能力を高めるため切磋琢磨していくことにした。そうして教員達のチーム力、グループダイナミクスを発揮したい。未来をになう若者の意識と能力を磨き、都市に関わる多くの人材の育成と輩出し社会貢献することが我々の使命である。新学部の船出に携わる我々は、創始者の太田耕造先生の名に恥じないよう、改めて身を引き締め、研究と教育と活動を記録し、この創刊号を第一歩として足跡を残していきたいと思う。

